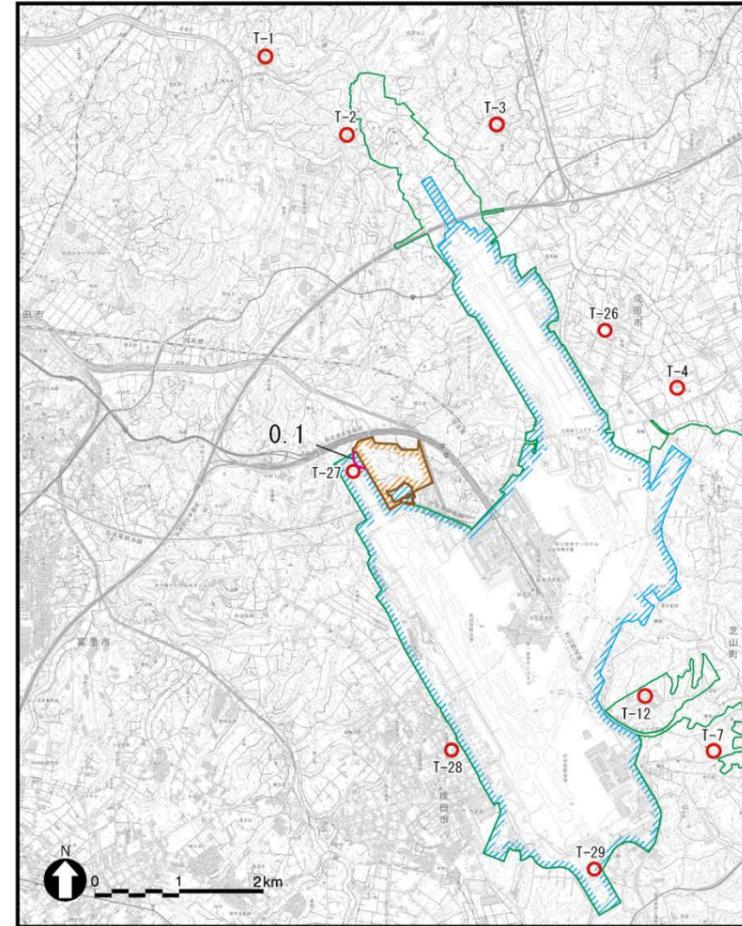
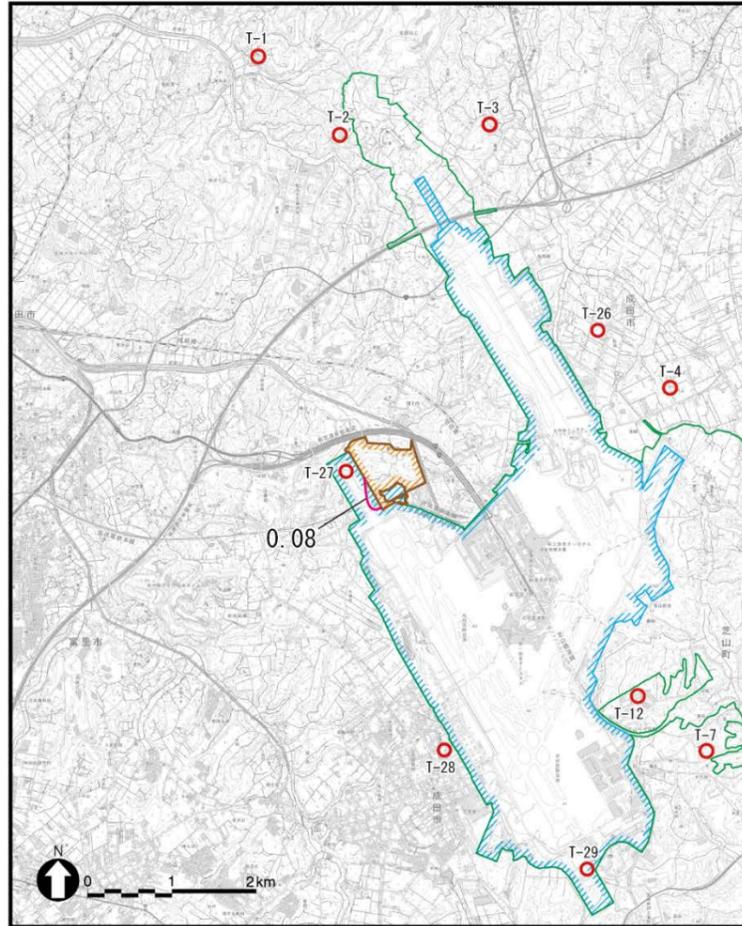


A 区域

N



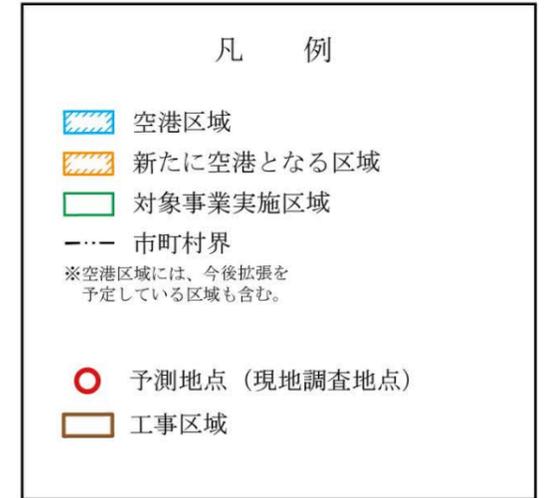
E

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素 (1時間値) 予測結果

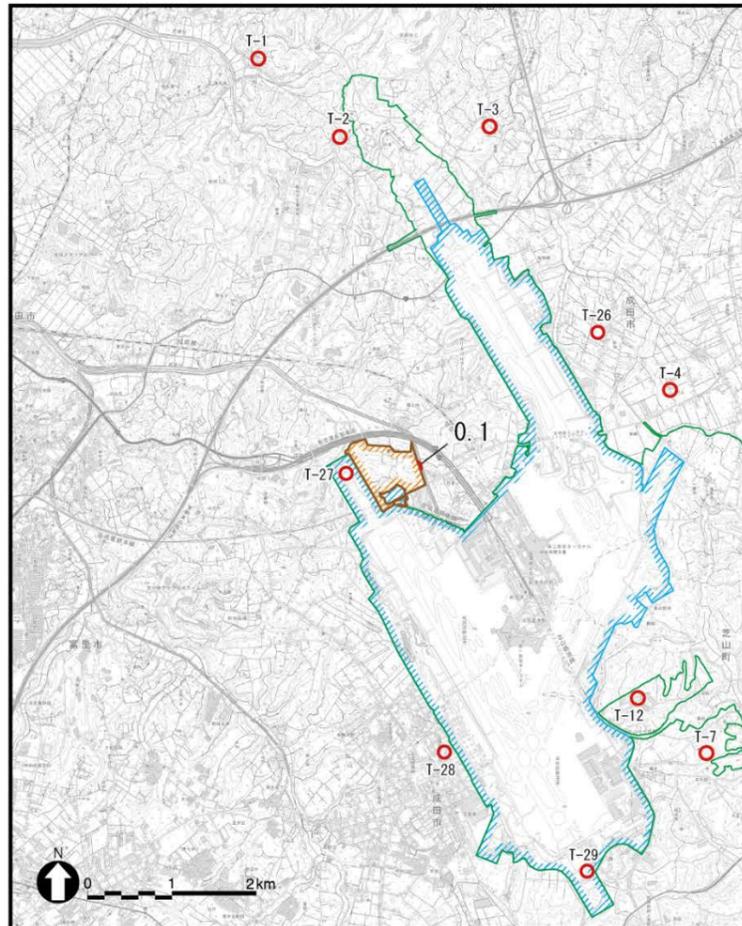
〈風向別コンター図〉

※ 主要な方向のみ図化

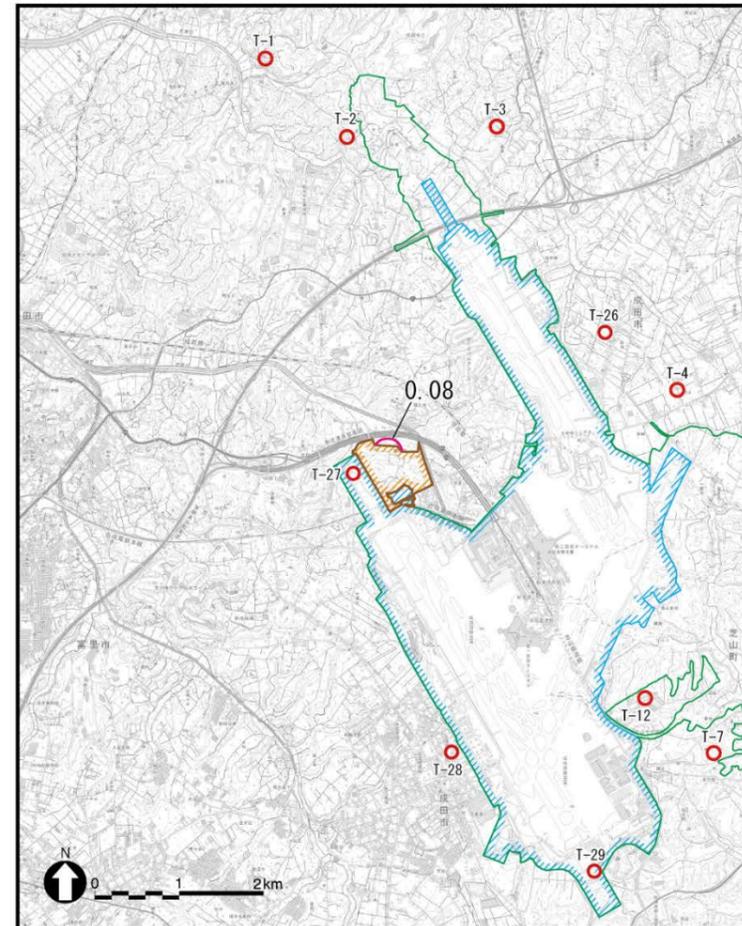
※ 風速 1.0m/s



W

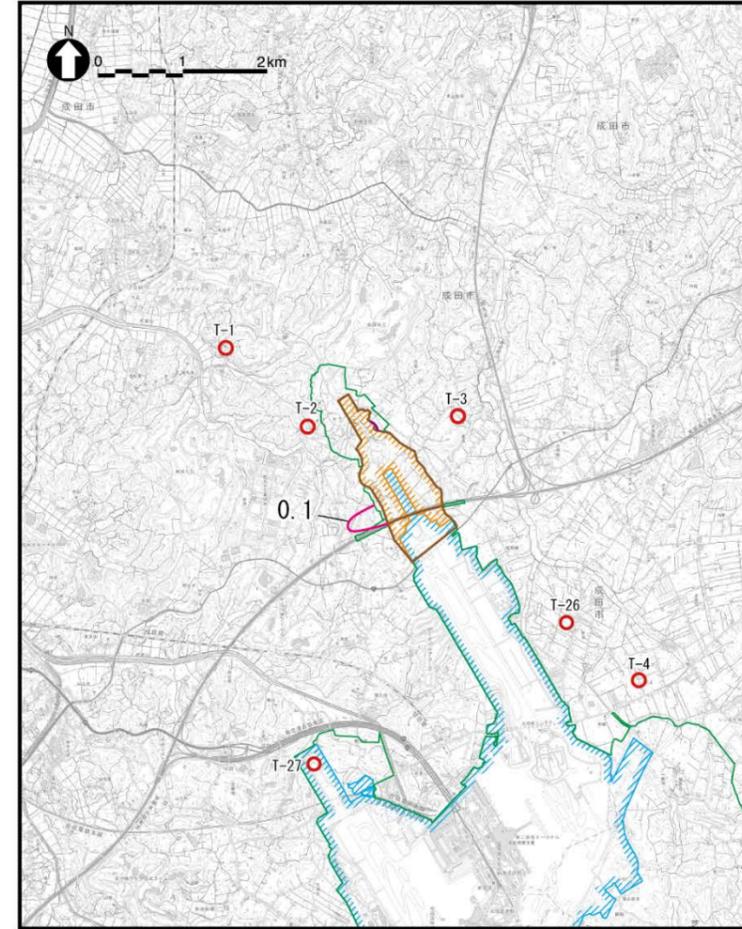
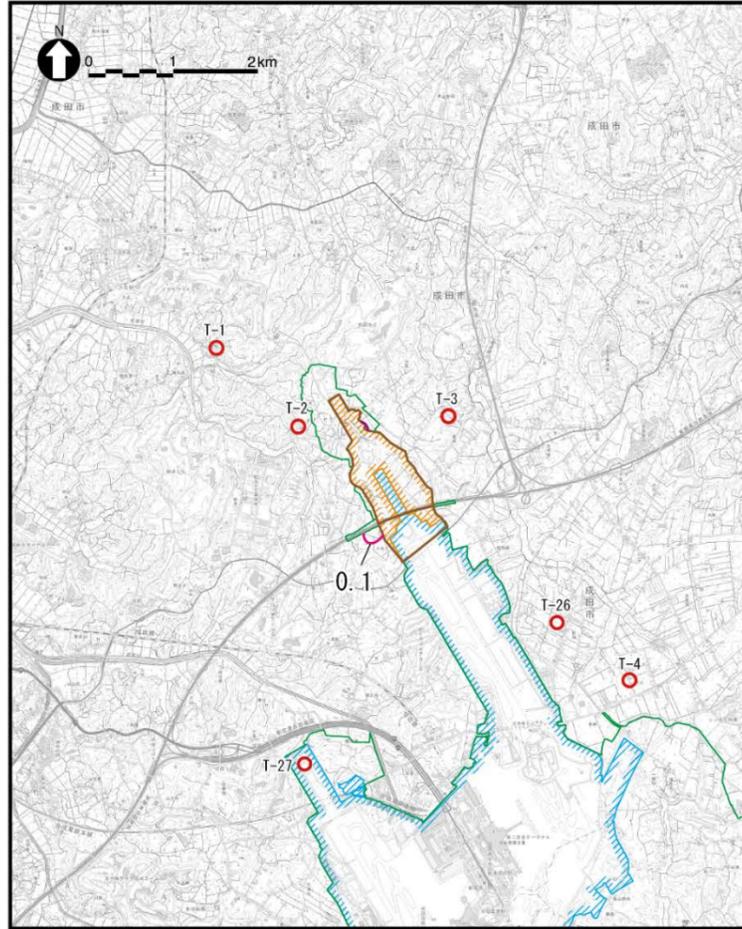


S



B 区域（昼間）

N



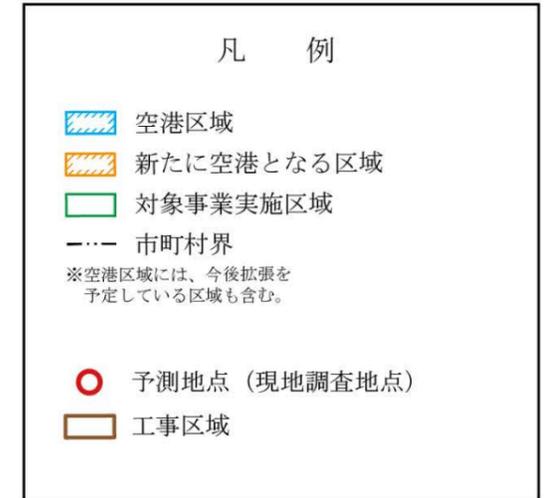
E

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素（1時間値）
予測結果

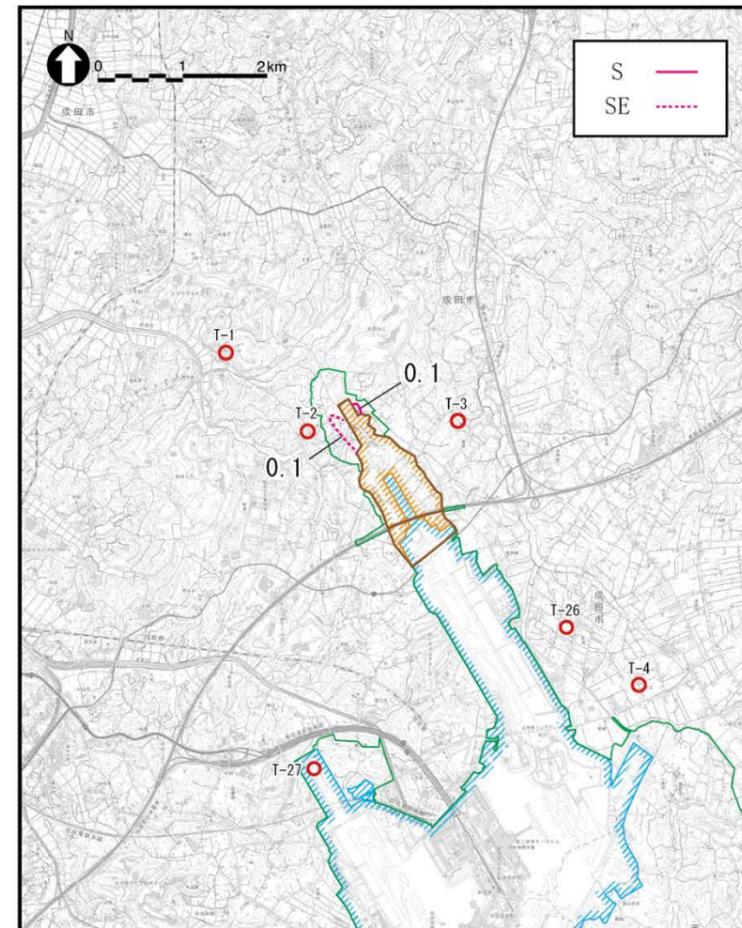
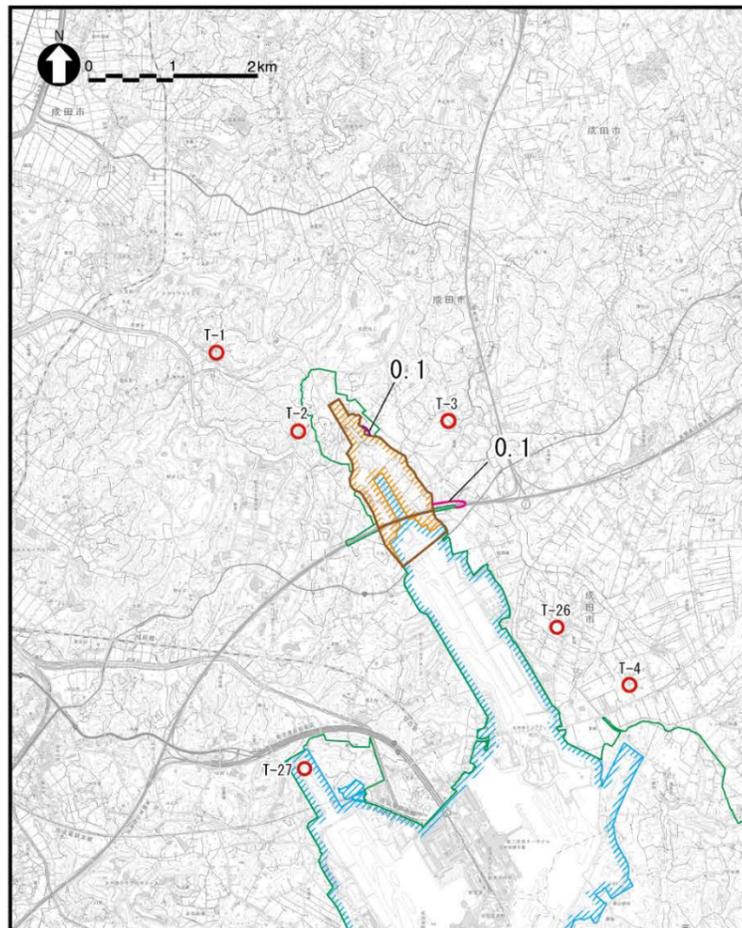
〈風向別コンター図〉

※ 主要な方向のみ図化

※ 風速 1.0m/s



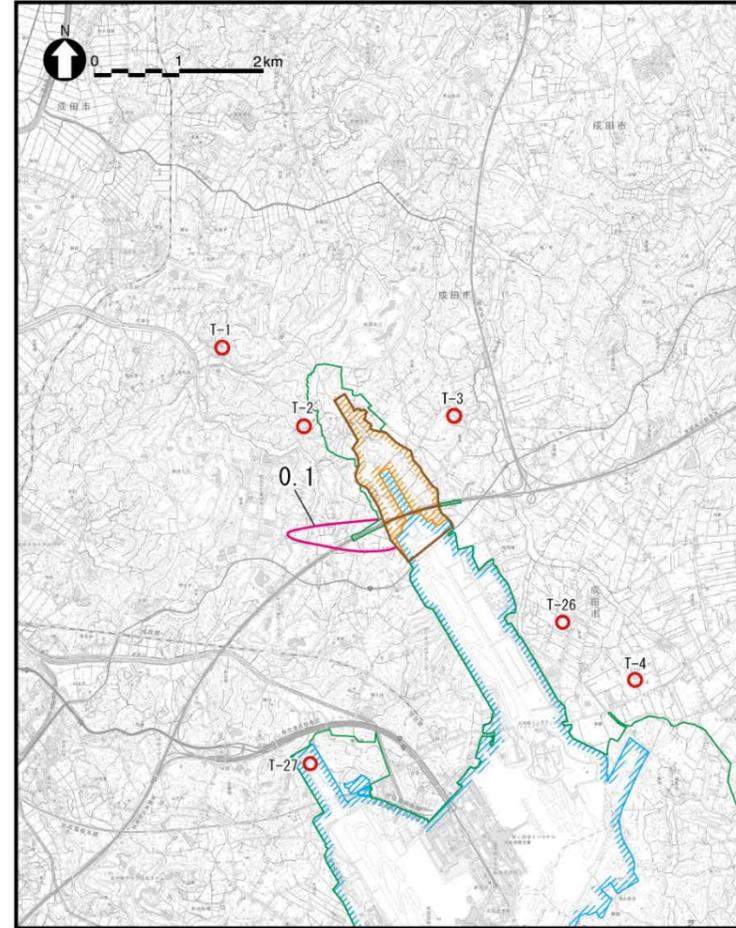
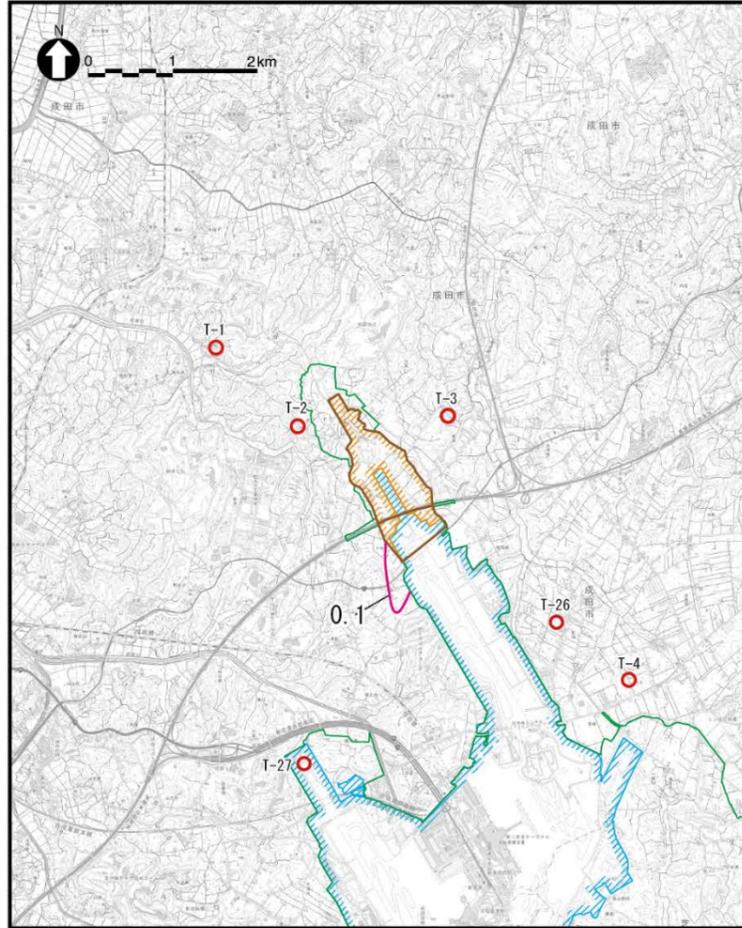
W



S

B 区域（夜間）

N



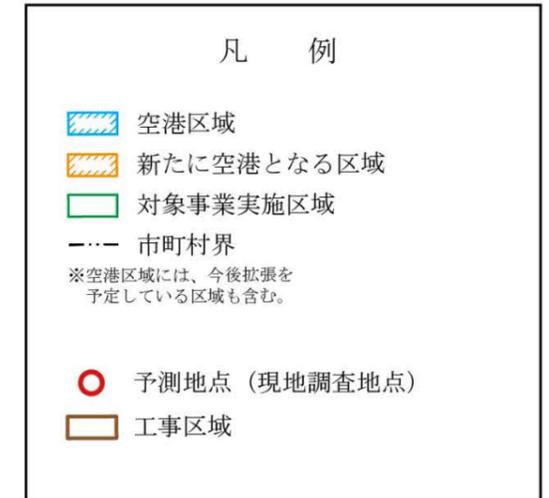
E

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素（1時間値）
予測結果

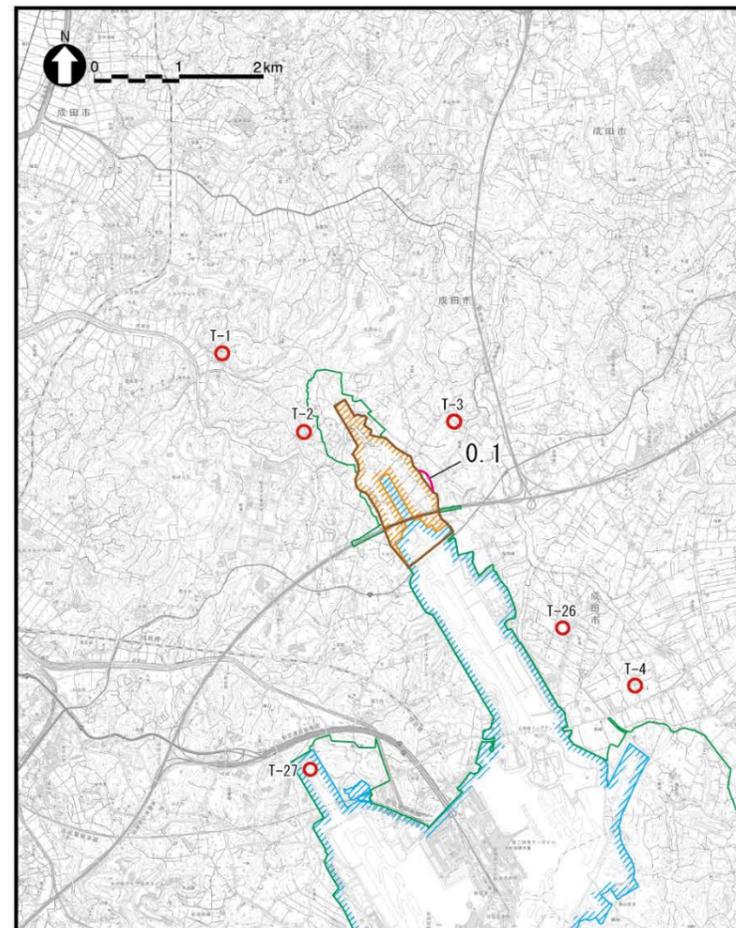
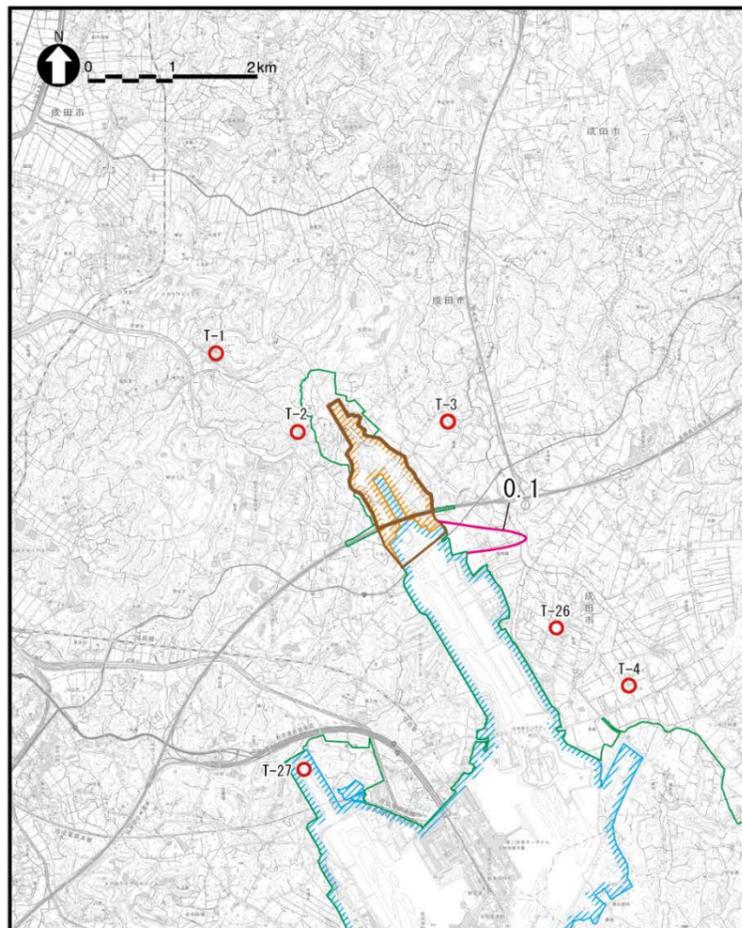
〈風向別コンター図〉

※ 主要な方向のみ図化

※ 風速 1.0m/s



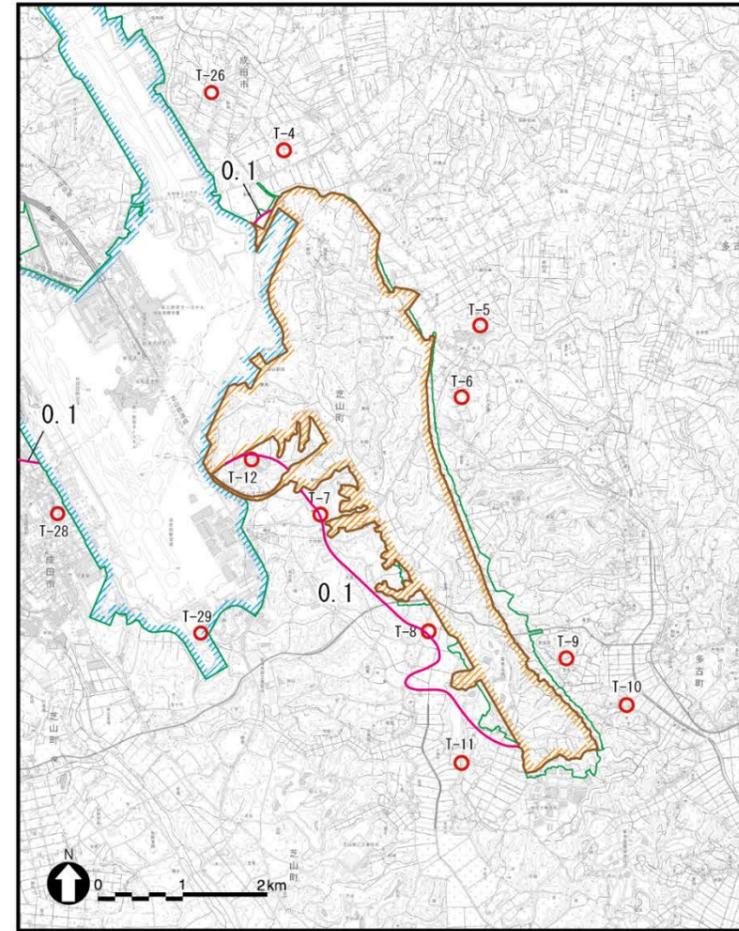
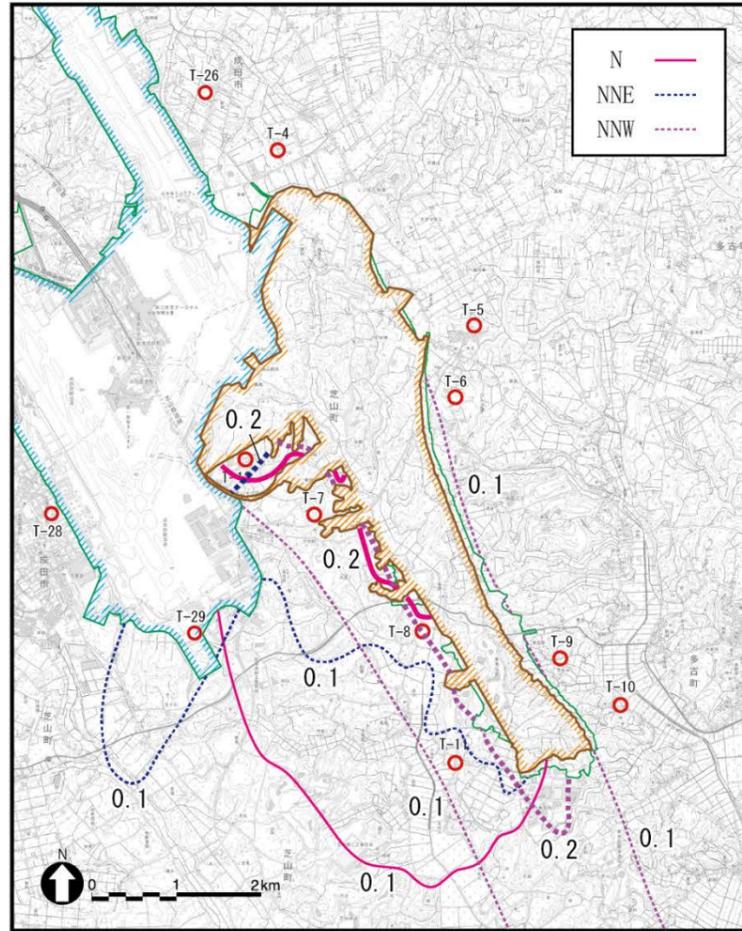
W



S

C 区域

N



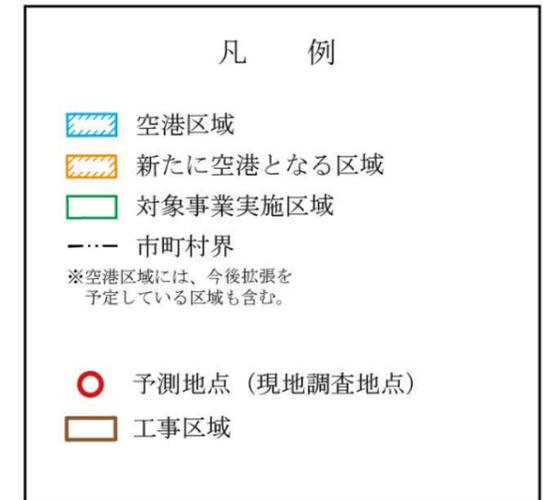
E

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素（1時間値）
予測結果

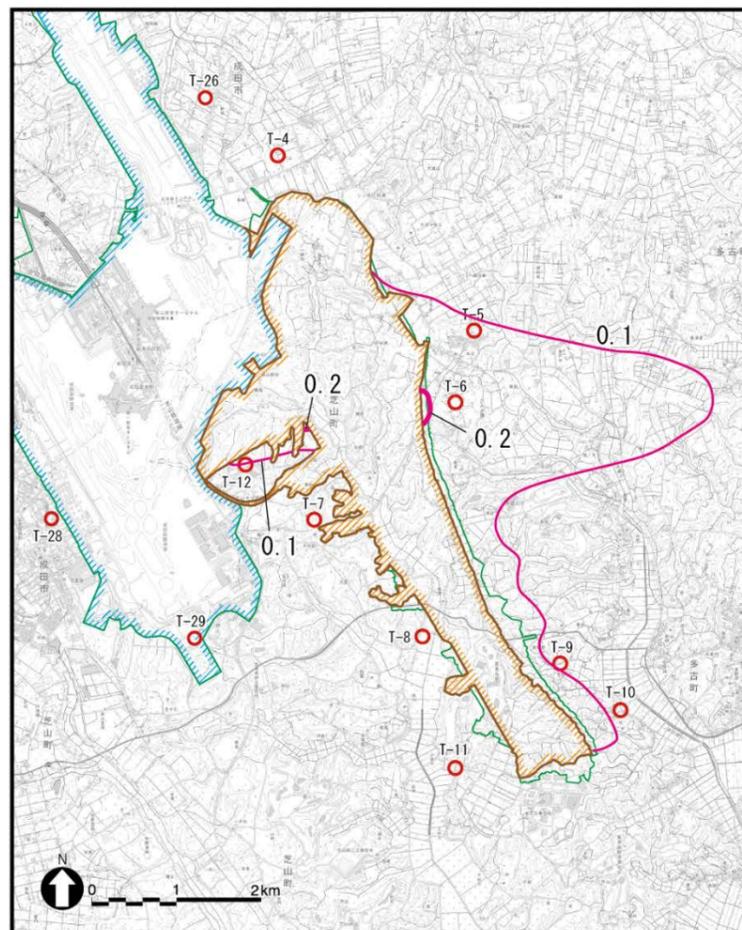
〈風向別コンター図〉

※ 主要な方向のみ図化

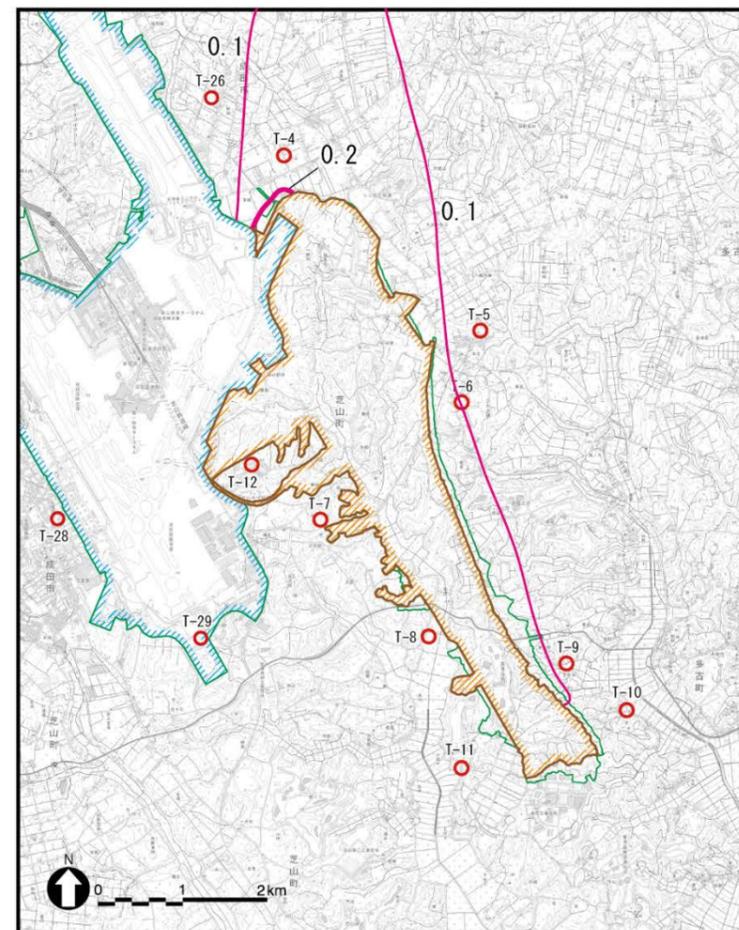
※ 風速 1.0m/s

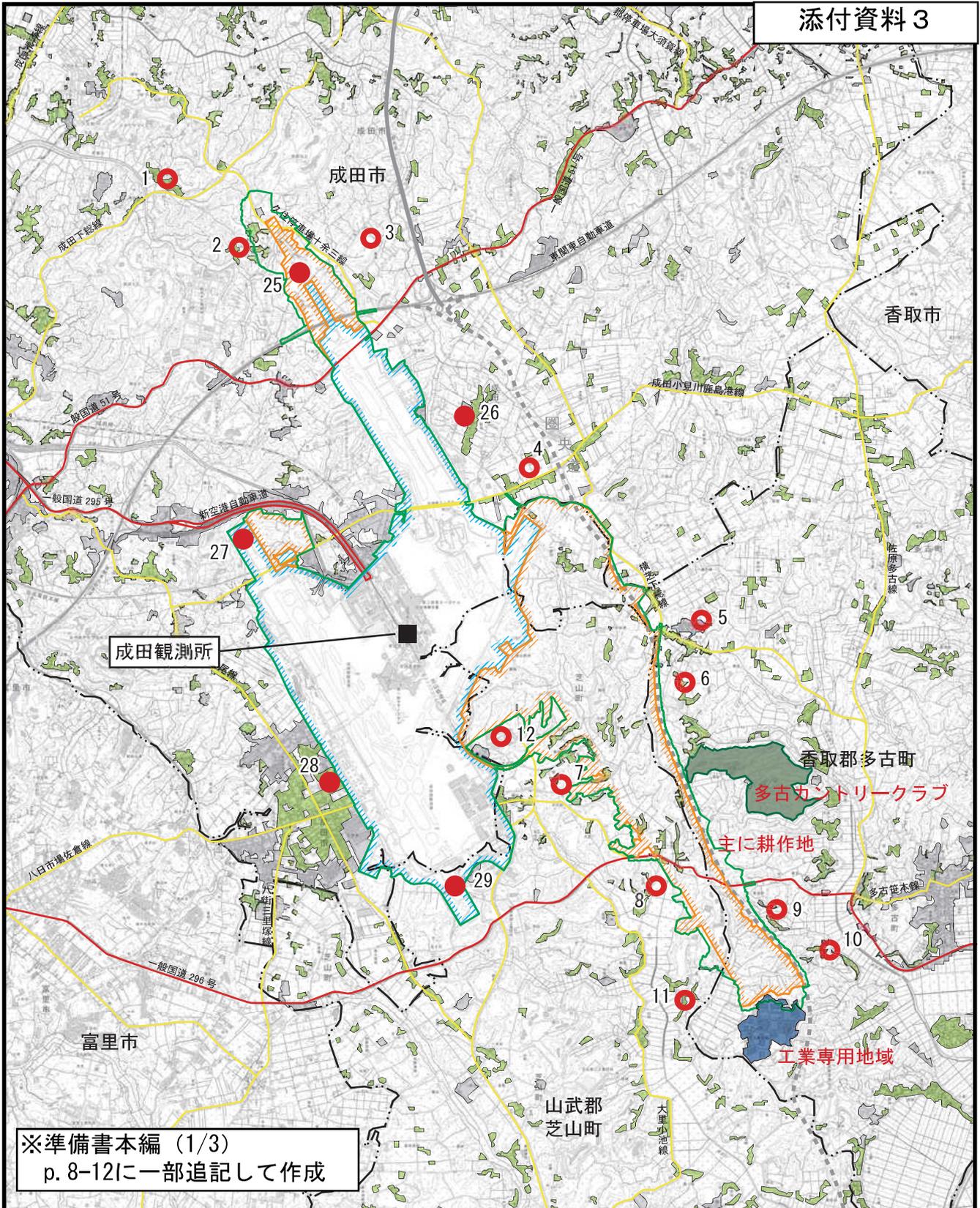


W



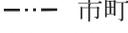
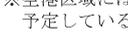
S





※準備書本編 (1/3)
p. 8-12に一部追記して作成

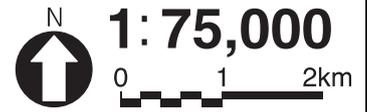
凡 例

-  空港区域
 -  新たに空港となる区域
 -  対象事業実施区域
 -  市町村界
 -  緑の多い住宅地
 -  市街地等
- ※空港区域には、今後拡張を予定している区域も含む。

-  気象観測所 (1 地点)
-  一般環境大気測定局 (NAA 測定) (5 地点)
-  一般環境大気質調査地点 (12 地点)

大気質 (一般環境大気質) 調査地点位置図

資料: 「自然環境調査Web-GIS 植生調査第6-7回 (1999~2012/2013~) 植生図」 (環境省 自然環境局 生物多様性センター)



以下の添付資料については、希少種保護の観点等から、
委員限り資料としている

- 4－1 HSI モデルによる谷津環境の定量評価結果<サシバ>
- 4－2 HSI モデルによる樹林の定量評価結果<キンラン>
- 4－3 谷津環境の整備・維持管理の対象とする場所（案）

廃棄物等の予測及び環境保全措置の予測への反映の考え方

(1) 工事中：造成等の施工による建設工事に伴う副産物

●予測の考え方

- ①施工計画等から工事中の副産物の発生量を予測。
- ②副産物発生量（予測結果）に再資源化等率を乗じて、最終処分量を予測。
- ③再資源化等率は、千葉県内の中間処理施設における実績値^{※1}から設定。ただし、その実績値が千葉県目標値^{※2}を下回る項目^{※3}については、千葉県目標値から設定。

※1：発生した副産物は対象事業実施区域周辺（千葉県内）の中間処理施設において処理され、再資源化等が図られると考えられることから、副産物の種類別に千葉県内の中間処理施設における実績（平成24年度建設副産物実態調査結果）から設定

※2：「千葉県建設リサイクル推進計画2016」の2020年度の目標値

※3：アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、混合廃棄物

副産物の種類	発生量 (t)	最終処分量 (t)	再資源化等率 (%)
アスファルト・ コンクリート塊 [※]	36,700	0 (111)	100.0 (99.7)
コンクリート塊 [※]	304,500	0 (914)	100.0 (99.7)
木くず・建設発生木材	142,200	3,273	97.7
金属くず	18,600	167	99.1
混合廃棄物 [※]	5,500	2,200 (2,239)	60.0 (59.3)
計	507,700	5,644	98.9

※ 「千葉県建設リサイクル推進計画2016」（平成28年3月 千葉県）の2020年度の目標値を達成するよう可能な限り建設副産物の発生抑制及び再利用化に努めることとし、再資源化等率を設置した。括弧内は、表10.13.1-13及び表10.13.1-16に示す再資源化等率を適用した場合の最終処分量を示す。

環境保全措置を実施することによって、目標を達成すると予測

●環境保全措置の予測への反映の考え方

- ・千葉県目標値を再資源化等率として設定したものについては、「再資源化等率の高い中間処理施設への処理委託」を実施することで現状以上の再資源化等率の実現につなげることを考えており、予測上見込んだことから「○」とした。
- ・その他の環境保全措置は、予測上は見込んでいないが、実施することで発生量及び最終処分量の低減を図る。

準備書の章番号	環境保全措置の種類	予測への反映の有無	備考
10.13.1	建設副産物の現場分別の徹底	×	
10.13.1	再資源化等率の高い中間処理施設への処理委託	○	千葉県目標値と同等の再資源化等率を達成するため、予測結果に見込んでいる。
10.13.1	再生骨材としての再利用の推進	×	
10.13.1	建設発生木材の再資源化の推進	×	

(2) 供用時：飛行場の施設の供用に伴う廃棄物

●予測の考え方

1) 一般廃棄物等

- ①現況の施設からの発生量を、廃棄物等の種類ごとに施設区別に整理。
- ②施設区別に将来の増加率を設定し、将来の発生量を予測。
- ③現況のリサイクル率に基づき※1、将来のリサイクル量を予測。

※1：廃棄物等の種類ごとのリサイクル率は将来も変化しないと想定

※2：ただし、検疫上の理由から法律で焼却を義務付けられている機内食工場生ごみ量は全量を焼却処理すると想定している。

予測結果は次ページ参照

2) 産業廃棄物

- ①現況の産業廃棄物発生量に増加率※1を乗じて、将来の発生量を予測。
- ②現況の割合に基づき※2 将来の中間処理量及び処理委託量を予測。

※1：航空機の発着回数に応じて増加すると想定

※2：中間処理及び処理委託の割合は将来も変化しないと想定

表 10.13.2-16 予測結果（産業廃棄物の発生量等）

単位：t/年

産業廃棄物の種類	現況			将来		
	発生量	中間処理量	処理委託量	発生量	中間処理量	処理委託量
汚泥	3,948	3,242	840	8,050	6,610	1,710
がれき類	61,078	72,010※	0	124,600	124,600	0

※ 前年度までの繰越分のうち10,932tを2016年度（平成28年度）内に処理

【現況】

廃棄物等の種類		発生量					
		空港関連施設	機内食関連施設※	貨物施設	航空会社関連施設	空港外事務所	官公庁等
一般廃棄物焼却量	ナリコークリーンセンター	14,185	6,496 (5,630)	609	204	0	0
	その他事業者	26	1,335	608	11	59	30
資源ごみ発生量	ナリコークリーンセンター	2,074	127	89	30	0	0
	その他事業者	48	1,724	536	465	21	41
事業系廃棄物発生量		276	351	2,639	213	0	0
コンポスト原料		14	0	0	0	0	0
合計		16,623	10,034	4,481	923	80	71

※1 ()内は機内食工場生ごみ量を示す。
 ※2 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある。
 資料：NAA資料

施設区分	空港関連施設 機内食関連施設	貨物施設	航空会社 関連施設	空港外事務所/ 官公庁等
増加率の設置に 用いた項目	飛行場を利用する旅客数	取扱貨物量	航空機の 発着回数	-
増加率	2.01	1.41	2.04	1.00

【将来】

廃棄物等の種類		発生量					
		空港関連施設	機内食関連施設※	貨物施設	航空会社関連施設	空港外事務所	官公庁等
一般廃棄物焼却量	ナリコークリーンセンター	28,511	13,058 (11,317)	859	416	0	0
	その他事業者	53	2,683	858	22	59	30
資源ごみ発生量	ナリコークリーンセンター	4,170	255	126	61	0	0
	その他事業者	96	3,466	756	949	21	41
事業系廃棄物発生量		554	706	3,721	434	0	0
コンポスト原料		29	0	0	0	0	0
合計		33,413	20,168	6,319	1,883	80	71

※1 ()内は機内食工場生ごみ量を示す。
 ※2 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある。

廃棄物等の種類ごとに集計

表 10.13.2-13 予測結果（成田空港における一般廃棄物等の発生量及びリサイクル量）

廃棄物等の種類		発生量	リサイクル量
一般廃棄物 焼却量	ナリコークリーンセンター処理分	12,844	—
	その他事業者処理分	3,705	—
資源ごみ発生量	ナリコークリーンセンター処理分	4,611	4,611
	その他事業者処理分	5,329	4,889
事業系廃棄物発生量		5,416	2,493
コンポスト原料		29	29
合計		61,933	12,022

※ 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある。

処理能力
の確保

●環境保全措置の予測への反映の考え方

- ・成田空港内の施設から排出される一般廃棄物（ナリコークリーンセンター処理分）については、NAAが適正な処理能力を有する施設を確保する必要があるため、将来の増加分に対しては環境保全措置として「一般廃棄物の適正な処理」を実施し、処理能力を確保することを予測上見込んだため「○」とした。
- ・将来のエプロンや滑走路の改修工事で発生したがれき類（コンクリートやアスファルト廃材）は全量を空港内のリサイクルプラントで処理できるよう、増加分に対しては環境保全措置として「舗装改修工事における建設廃材の再資源化」を実施し、処理能力を確保することを予測上見込んだため「○」とした。
- ・その他の環境保全措置は、現在の廃棄物発生量を基に予測しているため、現在実施している取組は、それと同等程度の実施することが予測値にも見込まれていることから「△」とした。それらは環境保全措置として掲げ、今後も継続的に実施していく。
- ・なお、「刈草や伐採木等の有効活用の推進」は、2011年の原子力発電所の事故以降しばらくの間、全量を焼却処理しており、現況値とした2016年度実績値に取組成果は含まれないため、「×」とした。（なお現在は、空港内の緑地帯から生じる刈草は、堆肥の原料として使用していただくために、その一部を空港周辺の農家にお配りしています。）

準備書の章番号	環境保全措置の種類	予測への反映の有無	備考
10.13.2	一般廃棄物の適正な処理	○	一廃処理設備の能力増強により、空港から生じる一廃を全て処理することを想定
10.13.2	舗装改修工事における建設廃材の再資源化	○	自社リサイクルプラントの更新により、現在と同等以上の再資源化の実施を想定
10.13.2	空港関連施設における一般廃棄物の分別	△	現状の廃棄物発生量には現状の取組効果が加味されている。予測ではそれと同程度の実施を見込んだ。
10.13.2	ペーパーレス化による発生量の抑制及び使用済み用紙のリサイクルの推進	△	
10.13.2	航空機からの取り下ろし廃棄物の分類の促進	△	
10.13.2	舗装改修工事における建設廃材の発生抑制	△	
10.13.2	産業廃棄物（梱包材、木製スキッド）のリサイクルの促進	△	
10.13.2	空港利用者に対する意識啓発活動の実施	△	
10.13.2	グリーン購入の推進	△	
10.13.2	刈草や伐採木等の有効活用の推進	×	